

公開討論会「住民自治はいつから始まる」

大阪労働学校・アソシエグローバル・ジャスティス研究会 共同企画

研究会(京都)と共催して10月27日、ひとまち交流館京都(京都市下京区)において、「住民自治はいつから始まる」と題して、都市の危機に向き合う住民自治のあり方を考える公開討論会を行なった。

昨年10月に京都市立芸術大学が西京区の洛西地区から京都駅東側に移転した。近年の洛西ニュータウンは高齢化と人口減少が著しく、交通の便などの問題が未解決だ。地元ではニュータウンの再生を視野に入れた市民参加の芸大跡地活用を訴える住民運動も始まっている。そもそも築後まだ43年(新しい建物はまだ20年)の学舎を廃止する事は文科省の方針

とも、SDGsを謳う市の方針とも矛盾している。今まで創り上げてきた公共の制度や仕組みが次々と解体され、生活に影響が出ているなかで、これから地域のつながりをどのようにつくっていくのだろうか。

地方自治のあり方を変えて地域のつながりを回復する「ミニシパリズム」や協同組合の実践が世界的に注目されている。返済不能な債務や災害



となった地域では、人々が協同し助け合いながら、危機を乗り越えようとする動きも広がっている。背景にある社会構造を学びながら、地域の暮らしの転換について一緒に考える。

洛西ニュータウンと芸大移転〜SDGsの嘘

京都市立芸大跡地の活用を目指す会 事務局 田中與念子



高齢化する洛西ニュータウン

洛西ニュータウンは新住宅市街地開発事業として行なわれ、その主体は京都市です。入居開始は1976年9月で、建設戸数は1万869戸です。そのうち市営が2725戸、府営が799戸、URが3952戸、高層の分譲が928戸、低層の分譲・戸建てが3365戸となっています。

洛西の人口ですが、1995年には約3万4000人だったのが、20年後の2015年には約2万3000人と65%になっています。さらに2020年には2万2000人という状態になっています。

一方、1995年に約2100人だった65歳以上

売出す時の新聞広告などにも大きく出て、皆さんそうだと思っていたのです。公的開発型ニュータウンというのが全国に約90カ所あって、このうち人口4万人以上を想定しながらも鉄道駅から1キロ以上離れているのは洛西ニュータウンだけです。洛西ニュータウンを走っているバス運賃も当初から京都市内の均二区間とは違いました。私が住んでいる竹の里地域の阪急桂駅発のバスは22時が最終なので、京都の中心部で遅くまで仕事をしていると家に帰れなくなりました。数年間までは、市長選挙があるたびに「洛西に地下鉄を通します」と何度も言っていました。今はそれも言わなくなりました。

住宅の問題では、空き家が多く、今は3割以上が空き家となっています。特に市営がひどいです。それから、4つある小学校の学区ごとにスーパーがあつたのですが、今も残っているのは1カ所だけです。あとは撤退しています。その他では移動店舗が来たり、生協が送迎をしたりとしています。

私たちが移転の前から芸大の跡地をどうするかという事で運動を始めました。いろんな形で運動を進めましたが、行政は何が何でも売り飛ばすという態度を強硬に出してきました。私たち住民もそうですが、芸大の学生が「かわいそうです。学生たちは移転する数カ月前に「新しい芸大にはグランドは無い」と聞かされたそうです。体育をするための小さなグランドもどきものはあるのですが、それも地面ではなく、ビルの3階にちよとしたもの作っただけです。すぐそばをJRが通っているのに、ボールは投げればダメです。

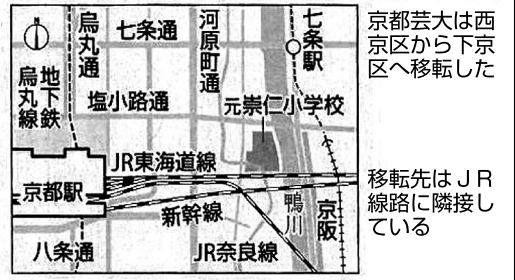
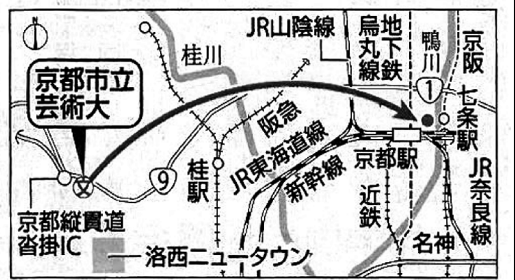
この洛西地域に1980年に西山文化の拠点という事で芸大が移転してきました。さらに京大建築学科も移転し

てきました。それから国際日本文化研究センター(日文研)も作られました。それが2023年10月に、芸大は京都駅の東側に移転しました。その理由というのがなんと「交通が不便だから」というものでした。もともと交通が不便な所に作ったのです。地下鉄を作らなかったのは京都市なので

が、そんな事を理由に移転しています。

芸大跡地をどうする

この洛西地域に1980年に西山文化の拠点という事で芸大が移転してきました。さらに京大建築学科も移転し



メという決まりになっていくそうです。

この何でも売り飛ばすというのは京都市のやり方、「資産インベシジョン推進室」という、京都市の不動産部門みたいな部署がやっています。資産インベシジョン推進室は、いろんな企画などを全て民間や企画会社に丸投げして、不動産を売り飛ばす事だけは必死でやっていると

12億円というのが本当に妥当な金額なのかという事ですが、議員さんも「50億円の価値はある」と言っていたので、私たちがこれを追及すると、市からは「取り壊しの費用も含んでいる」という返答がありました。取り壊す

ことを前提にして12億円という金額が出てきたという事です。この「取り壊す」という事が、今日の大きな主題の一つである「SDGsの嘘」という事なのです。芸大の建物の中で、去年の時点で最も古いものは築43年、新しい建物では築20年です。これらの法定耐用年数は47年です。国が出している文書にも書かれているのですが「学校や官庁などの鉄筋コンクリートは、60年以上使いなさい」となっています。それにもかかわらず売るので、京都市もSDGsを謳っていますが、実際にやる事は抽象的な事です。「国連も言っている事だから」「SDGsは大事です」とかで職員がバジを付けたりにしていますが、実際にやっている事は違っている事なんです。

重要な局面を迎える医療問題

人口も減って、半分は高齢者という状態の中で、今、医療問題が重要な局面を迎えています。西京区は全国平均と比べて大きな病院が元から少ないのです。シミズ病院というグループがあります。桂駅の近くと、洛西ニュータウンの中にも洛西ニュータウン病院と洛西シミズ病院があります。そのうちの桂駅の近くのシミズ病院と洛西ニュータウン病院を統合して向日市に移転する事になりました。さらに洛西シミズ病院も一部機能を残して向日市に移転するようです。そうなる洛西ニュータウンには総合病院は無くなるのです。これは、どうにかしないといけないと思ひ、2年前から会を作って京都市と交渉をしているのですが、京都市は「シミズ病院グループが移転するというのを認めていない」という事で動きません。でも実際は「洛西ニュータウン病院の跡地はホテルが売ってほしいと言っている」と噂されるような状況にあります。でも言わないのです。もし認めると「どうにかしろ」と住民から突き上げられる事になるので、もうどうしようもないところまで放っておきたいというのが市の本音です。

話を聞いて腹が立つのは「病院がおかれない」という事です。もともと最初は関西医科大学が